

2018 年 度

# 事業実績報告書

社会福祉法人寿楽園

## 2018 年度

### 総括

#### ～鹿毛幸広理事長のご逝去～

長きに渡り法人をけん引し、法人の発展に多大なる貢献をした鹿毛理事長が5月3日急逝した。

鹿毛幸広理事長は、初代鹿毛敏克、二代目鹿毛ヨシ子の志を引き継ぎ、ゆるぎない信念をもとに社会福祉の充実のために駆け抜けた生涯であった。昭和60年、養護老人ホーム改築の際は、全国に先駆けて全室個室化を実現し、平成6年には「老人保健施設あおぞら」「ケアハウスあおぞら」を開設した。さらに、全国老人福祉施設協議会制度政策委員会委員長として、介護保険制度の枠組み作りに尽力した。その後も、都市部の介護ニーズに応えるべく、福岡、札幌、大阪にデイサービスを展開した。首都圏では、平成18年に川崎市に「ケアハウス青田風・風知草」、平成29年から横浜市に「特別養護老人ホーム笹の風」を開設した。鹿毛幸広理事長の功績は、施設整備に留まらず、阪神淡路大震災から東日本大震災への支援活動を通して福祉のあり方を体现し、その基本精神を受け継ぐ人材育成、組織体制の強化、介護情報の電子化等、その実績は計り知れないものであった。

#### ～故鹿毛幸広理事長を偲ぶ会～

亡き鹿毛幸広理事長の法人の発展に多大なる貢献をたたえることはもとより、故人の志を継承する意思、そして、次代の躍進と新たな方向性を法人内外に示すため、平成30年5月16日、故鹿毛幸広理事長を偲ぶ会の式典を催した。

#### ～法人新体制の整備～

鹿毛幸広理事長の急逝に伴い、平成30年5月16日の臨時評議員会、理事会にて、理事長および常務理事の選定並びに特別養護老人ホーム寿楽園の施設長を選任し、法人の新体制を整備した。また、平成30年6月7日理事会において、横浜第2期施設整備及び九州再生事業について、理事長交代に伴う法人新体制の基盤整備を優先し、施設整備時期を見直すこととした。

## ～法令遵守・内部管理体制の強化（“攻め”と“守り”の組織づくり）

内部管理体制を強化するため、従前の経理課、庶務人事課を九州と川崎・横浜の拠点ごとの総務課に再編し“守り”的要とした。併せて、“攻め”機能として、新規事業の企画や人材確保を担う法人企画課を創設した。また、諸規程・規則の制定・見直しを実施するとともに、副法令遵守責任者（施設長・部長）及び法令遵守担当者（課長）による月次の自主点検機能を強化し、法令遵守を徹底した。

## ～経営の安定化～

横浜事業所開設から2年目を迎える横浜事業所の組織力の強化を目的として、6～7月にかけて九州事業所から中堅職員を中心とした6名の転勤により、内部の指導連携体制を強化した。さらに、11名の職員に対し、事業所内で介護実務者研修を実施し、介護職員による喀痰吸引等の実施施設としての登録を行うと共に、職員研修も予定通り実行した。その結果、感染症等の発生もなく、施設の稼働は満床状態で推移した。

次に、介護保険制度創設時に、都市部の在宅介護ニーズに応えるべく展開した福岡・札幌の通所事業（賃貸物件）については、近年、株式会社等の民間事業者の参入によりニーズが充足したことを踏まえ、賃貸契約満了までに撤退することを決定し、先行して札幌事業所のデイサービス事業を廃止した。また、弥生が丘駅前クリニックについても、地域の在宅医療の充実により、外部医療を活用した方が利用者のニーズにより応えられると判断されたため、年度末をもって廃止した。一方で、鳥栖においては、他法人が人材不足、コスト高により事業継続が困難となったことで、鳥栖市の配食サービス事業や訪問介護、居宅介護支援事業所の利用者の受け皿となつた。

## ～中長期的な視点で新たな人材の開発～

奨学金制度による看護人材育成や職員の資格取得を継続して支援すると共に、入職内定の学生にも奨学金制度の適用を拡大し、新たな人材開発に取り組んだ。

次に、次世代の管理職監督職の養成に向け、管理・監督職の教育プログラムを再構築し内外研修を強化した。さらに、介護情報管理システムのバージョンアップ他ITインフラ機器の更新他、ノーリフトの取り組みを推進し、職員の負担軽減と業務効率化に努めた。

一方で人材不足の影響は大きく、一部拠点においては、前年度対比で残業時間が拡大するなどの影響が生じており、今後、外国人材活用を含め、従来と異なる人材開発を推進していくかなければならない。